

令和 5 年 6 月 13 日現在

機関番号：82611

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2020～2022

課題番号：20H03611

研究課題名(和文) 多次元脳神経画像とゲノムによる精神疾患の脳病態に基づく新たな診断体系の構築

研究課題名(英文) Development of a new diagnostic system based on brain pathophysiology of psychiatric disorders using multidimensional neuroimaging and genomics

研究代表者

橋本 亮太 (Hashimoto, Ryota)

国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター・精神保健研究所 精神疾患病態研究部・部長

研究者番号：10370983

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,600,000円

研究成果の概要(和文)：統合失調症、双極性障害、うつ病、自閉スペクトラム症と健常者の合わせて5383例の脳MRI画像より大脳皮質厚と大脳皮質面積を算出し、統合失調症、双極性障害、うつ病において、大脳皮質厚の菲薄化を見出し、統合失調症、うつ病、自閉スペクトラム症において、大脳皮質面積の減少を見出した。これらの菲薄化と減少パターンは疾患間で類似しており、疾患横断的なフェノタイプであることが見いだされた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

様々な精神疾患において、脳の形態に健常者との差異があることが知られているが、精神疾患間においてその差異の類似性と特異性については知られていなかったため、今回、統合失調症、双極性障害、うつ病、自閉スペクトラム症の4大精神疾患において類似性を明らかにしたことは学術的に意義がある。現在の精神疾患診断は客観的な基準はなく症状により分類されているが、本結果は脳の形態に基づく疾患分類に資する可能性がある。

研究成果の概要(英文)：We calculated cortical thickness and cortical area from MRI images of 5383 patients with schizophrenia, bipolar disorder, depression, autism spectrum disorder, and normal subjects, and found thinning of cortical thickness in schizophrenia, bipolar disorder, and depression, and a decrease in cortical area in schizophrenia, depression, and autism spectrum disorder. These patterns of thinning and reduction were similar across disorders and were found to be cross-disease phenotypes.

研究分野：精神医学

キーワード：統合失調症 精神疾患 脳神経画像 MRI 大脳皮質下体積 大脳皮質厚 大脳皮質面積

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

精神疾患の診断は医師が症状を診ることによりなされており、客観的な検査等による診断法は未だ確立しておらず、客観的・科学的診断法の開発が必要とされている。近年 DSM-5 の改訂が行われたが、診断閾値を低くし正常との境界が曖昧な障害を導入したため、精神疾患診断の感度が高くなったものの、特異度が低下しているという問題が起こっている。その上、精神疾患の診断体系である DSM や ICD に基づく研究が、臨床神経科学や遺伝学における新たな進歩による知見を精神疾患の診断や治療に取り込むことに失敗していると、米国立精神衛生研究所(National Institute of Mental Health: NIMH)が問題提起をし、精神医学界に大きな反響を呼んだ。その際に NIMH は、精神疾患を診断カテゴリーにとらわれることなく、生物学的でありかつ疾患横断的な視点を取り入れられたディメンショナルな評価基準による枠組みにて研究を進めるという RDoC (Research Domain Criteria: 研究領域基準) プロジェクトを提唱した。すなわち、現在の精神疾患の診断分類はあくまでも精神症状によって分類され、生物学によって分類するものではないため、高い感度と特異度を達成する客観的診断基準や効果の高い生物学的治療法に結び付かないというある意味当然の批判であった。

この問題を解決するために、今まで様々な方法にて精神疾患を生物学的に分類する試みが行われてきたが、未だ成功していない。その原因は、大きく分けて以下の3つがあると考えられる。

1. 小規模のサンプルサイズの研究が多く、臨床応用に必須である再現性の検討がなされていない
2. ある精神疾患と健常者の比較を主に行っており、生物学的な分類を乗り越えるための他の精神疾患との比較検討がなされておらず、現在の診断基準にとらわれた検討しかなされていない
3. 脳科学やコンピューターサイエンスの発展による真の生物学的分類に結び付くような多次元のデータを用いた研究がなされていない

2. 研究の目的

本研究提案においては、研究代表者が独自に設定した上記の3つの問題点を乗り越えて、精神疾患の疾患特異的な異常及び疾患に共通する脳病態を同定し、既存の精神疾患の客観的診断基準に資する成果を得るだけでなく、脳病態に基づく新たな診断体系モデルの構築を行うことを目的とする。

本研究の独自性は、大規模のサンプルサイズでの多施設共同研究を行い、臨床応用に必須である再現性の検討を行うことにある。研究者は常に新規性を求め、研究成果の論文を掲載する雑誌も研究グラントも同様に新規性を高く評価しがちなため、小規模サンプルによる新しい知見が次々に生まれる。一方で、再現性の検討の評価が低く軽視されるため、研究されないことが多い。臨床研究ではその小規模サンプルで得られた結果が再現されないことが多く(実は基礎研究でも再現性が低いことが知られている) 研究の科学としての意義が問われ始めている。一方で、この問題を解決するためには、研究評価がされにくく研究グラントの獲得もしにくいにもかかわらず、多大なエフォートと費用がかかる多施設の大規模サンプルを収集して解析する必要があり、極めて実施が困難である。研究代表者は、COCORO (Cognitive Genetics Collaborative Research Organization: 認知ゲノム共同研究機構) という共同研究体を独自に構築することにより、この問題を乗り越え本研究提案を行っている。更に、COCORO はオールジャパンの多様な精神疾患研究を含む体制として構築されているため、疾患横断的・疾患特異的解析を行うことが

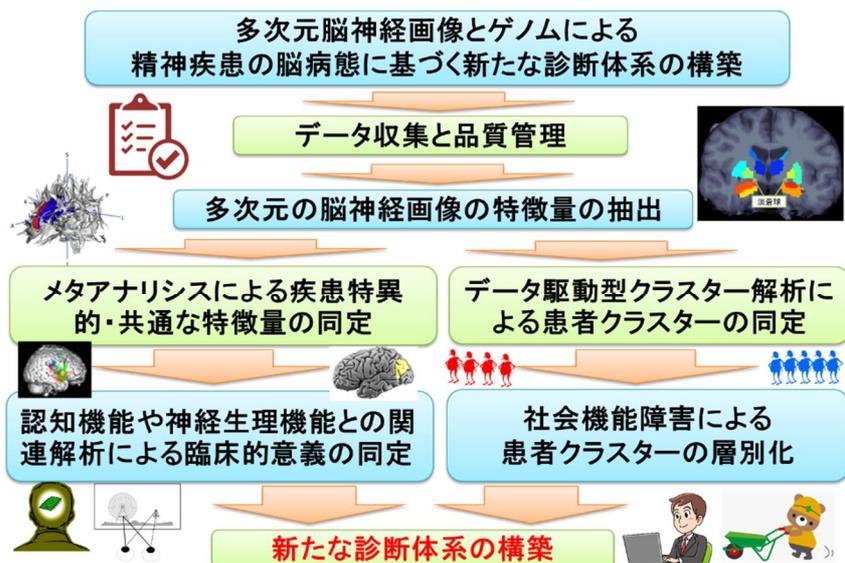
できるという優越性もある。

脳科学やコンピューターサイエンスの発展が著しい三次元構造画像、拡散テンソル画像、安静時機能的MRI画像などの多次元の脳神経画像を用いた最新の脳科学と古くからある精神医学との融合研究を行う中で、精神疾患横断的・特異的な特徴量やその組み合わせを見出すために、精神疾患横断的な検討を行い、疾患特異性及び共通性の検討を行い、更には、三次元構造画像で認められる脳部位の異常を説明できる微細白質構造や機能的コネクティビティを検討する包括的研究は、今までになく独自性が高い。更に、社会機能について、ヒトが生きていく上で最も重要なことの一つである労働という側面で新たな診断体系として捉えなおすことは、創造性溢れる試みである。どの精神疾患でも共通の診断基準として、社会機能の障害というものがあげられている。この社会機能の一部を労働時間で評価することにより、まさしくヒトを従来型のカテゴリカルな分類（仕事に関する障害のあり・なし）から、ディメンショナルな分類（労働時間）への昇華を行い、この生物学的な背景を脳神経画像によって説明可能にすることが、精神疾患を生物学的に分類するという目的を果たすことになると考えられる。

3. 研究の方法

本研究においては、COCORO参画機関より、統合失調症、双極性障害、うつ病、自閉スペクトラム症、健常者の脳MRIデータ（三次元脳構造画像、拡散テンソル画像、安静時機能的脳MRI画像）を収集し、それらのデータの品質管理、多次元の脳神経画像の特徴量の算出、特徴量を用いたメタアナリシスと疾患特異的及び共通な異常を同定するための解析を行い、疾患特異的及び共通な異常の特徴量を同定する。同定した特徴量によって、精神疾患の再分類を行い、認知機能や神経生理機能との関連を検討し、臨床的な意義を見出し、新たな診断体系の構築に資する。

また、疾患横断的に多次元の脳神経画像の特徴量とゲノム情報のデータ駆動型クラスター解析を行うことにより、疾患横断的なクラスター化や各疾患におけるサブpopulation化を行い、その患者クラスターにおける社会機能の違いを検討することにより、社会機能に基づく患者クラスターを同定し、新たな診断体系の構築に資する。



それぞれの解析のステップについては具体的には以下のとおりである。

1. データ収集及び品質管理

COCORO参画機関において、三次元脳構造画像、拡散テンソル画像、安静時機能的脳MRI画像を取得し、それに伴って認知機能、神経生理指標、臨床評価、ゲノムなどの生体試料の収集を行う。収集した脳神経画像を集約し、脳構造の粗大な異常（脳梗塞や嚢胞など）や体動などをチェックするデータの品質管理を行い、使用可能なデータのみを選択する。

2. 多次元の脳神経画像の特徴量の抽出

三次元脳構造画像に関しては、EGNIMAのFreeSurferプロトコルを用いて、大脳皮質下体積、大脳皮質厚、大脳皮質面積を算出する。拡散テンソル画像に関しては、EGNIMAのDTIプロトコルを用いて、FA、MD、AD、RDの4つの拡散指標を算出し、微細白質構造を検討する。安静時機能的脳MRI画像においては、CONNを用いて解析し、132部位間の8646の機能的なコネクティビティ値を算出する。

3. メタアナリシスによる疾患特異的・共通な特徴量の同定と臨床的意義の同定

算出した特徴量について、統合失調症、双極性障害、うつ病、自閉スペクトラム症、健常者において、年齢、性別などを共変量として、メタアナリシスを行い、疾患特異的もしくは疾患共通な異常を同定する。次に、大脳皮質下体積、大脳皮質厚、大脳皮質面積などの各脳部位の特徴量の異常を説明できるような脳部位間を結ぶ微細白質構造や機能的な脳部位間のコネクティビティを検討し、脳全体としての病態の理解に資する成果を得る。この特徴量による精神疾患の再分類を行い、認知機能や神経生理機能や生体試料との関連を検討し臨床的意義を見出す。これによって、精神疾患の新たな診断基準の構築に資する成果を得る。

4. データ駆動型クラスター解析による患者クラスターの同定と社会機能との関連解析

多次元の脳神経画像の特徴量とゲノム情報を用いて疾患横断的にデータ駆動的にクラスター化することにより、疾患横断的なクラスター化、および各疾患におけるサブポピュレーション化を行う。ゲノム情報は、精神疾患における遺伝的リスクの総体とされるポリジェニックリスクスコアを用いる。そして見いだされた患者クラスターにおいて、重要な社会機能の一つである労働時間の障害があるクラスターを同定する。そのクラスター患者の脳神経画像的な特徴を再検討及び統合することにより、脳病態に基づく精神疾患の客観的診断基準の構築に資する成果を得る。

4. 研究成果

統合失調症(SC)、双極性障害(BD)、うつ病(MD)、自閉スペクトラム症(ASD)といった主要な精神疾患における大脳皮質の神経解剖学的な異常は、個々の疾患別には様々な脳構造画像研究の報告があるが、統一した手法で疾患横断的な解析がなされた研究はない。我々は日本の多施設共同研究によりSC、BD、MD、ASDの大脳皮質厚と大脳皮質面積の大脳皮質構造についてメガ解析を実施し、各疾患の共通性と特異性を検討した。

認知ゲノム共同研究機構(COCORO)から、SC群は1450例対健常(HC)群2583例を、BD群は235例対HC群1057例を、MD群は565例対HC群1671例を、ASD群は195例対HC群1403例を症例対照解析に組み込んだ。各被験者のT1強調核磁気共鳴画像を得てFreeSurferにより大脳皮質厚と大脳皮質面積を算出した。撮像プロトコル別のコホートで各領域の平均値の群間差の効果量Hedge's d を年齢及び性別を共変量として算出してメタ解析した。

SC群では健常群と比較して大脳皮質厚が全般的な菲薄化を認め全脳平均皮質厚(GT)における $d = -0.48$ であった。同様に大脳皮質面積も全般的に減少しており全脳皮質面積(TS)では $d = -0.35$ であった。BD群では大脳皮質厚については健常群と比較して68領域中34領域で有意に菲薄化しておりGTにおける $d = -0.39$ であった。BD群の大脳皮質面積については健常群と比較して有意な減少は見られずTSで $d = 0.0080$ であった。MD群では大脳皮質の菲薄化が68領域中28領域で認められ、大脳皮質面積減少は3領域で認められた。ASD群では大脳皮質厚も大脳皮質面積も有意差がなかった。

各疾患別の研究では国際的なコンソーシアムであるENIGMAの研究報告が参考になる。SCとBDで共に大脳皮質厚菲薄化が認められ、大脳皮質面積減少はSCのみで認められBDでは認めら

れなかった点は ENIGMA の疾患別研究の結果がそれぞれ再現されていた。一方で、MD で大脳皮質厚菲薄化と大脳皮質面積減少を認めた今回の結果は ENIGMA の MD の結果よりも効果量が大きく、国際的コンソーシアムと日本の多施設共同研究とでは MD の病態や診断が異なっているのかもしれない。ASD においては ENIGMA では大脳皮質厚が前頭葉領域で増加、側頭葉領域で菲薄化していて、今回の結果とは効果量も合わないうえ、統計的有意差もなかったことから、我々の研究では検出力も不足していて違いが再現されなかったと考えられる。国際的コンソーシアムと日本の多施設共同研究では SC と BD では疾患特徴が共通しているものの、MD については病態が異なるなど、精神疾患の中でも国内外で特徴の違いがあることが示唆された。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計60件（うち査読付論文 60件/うち国際共著 10件/うちオープンアクセス 60件）

1. 著者名 Onitsuka T, Hirano Y, Nemoto K, Hashimoto N, Kushima I, Koshiyama D, Koeda M, Takahashi T, Noda Y, Matsumoto J, Miura K, Nakazawa T, Hikida T, Kasai K, Ozaki N, Hashimoto R.	4. 巻 76(1)
2. 論文標題 Trends in big data analyses by multicenter collaborative translational research in psychiatry.	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Psychiatry Clin Neurosci	6. 最初と最後の頁 1-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/pcn.13311	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 Sonderby IE, (42名中略) Hashimoto R (156 名中44番目), (109名中略) Andreassen OA; ENIGMA-CNV Working Group; ENIGMA 22q11.2 Deletion Syndrome Working Group.	4. 巻 43(1)
2. 論文標題 Effects of copy number variations on brain structure and risk for psychiatric illness: Large-scale studies from the ENIGMA working groups on CNVs.	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Hum Brain Mapp	6. 最初と最後の頁 300-328
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/hbm.25354	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する
1. 著者名 Koshiyama D, Miura K, Nemoto K, Okada N, Matsumoto J, Fukunaga M, Hashimoto R.	4. 巻 43(1)
2. 論文標題 Neuroimaging studies within Cognitive Genetics Collaborative Research Organization aiming to replicate and extend works of ENIGMA.	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Hum Brain Mapp	6. 最初と最後の頁 182-193
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/hbm.25040	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 Takemoto T, Baba M, Yokoyama K, Kitagawa K, Nagayasu K, Ago Y, Seiriki K, Hayata-Takano A, Kasai A, Mori D, Ozaki N, Takuma K, Hashimoto R, Hashimoto H, Nakazawa T.	4. 巻 15(1)
2. 論文標題 Oxytocin ameliorates impaired social behavior in a mouse model of 3q29 deletion syndrome.	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Mol Brain	6. 最初と最後の頁 26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s13041-022-00915-w	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yasui-Furukori N, Muraoka H, Hasegawa N, Ochi S, Numata S, Hori H, Hishimoto A, Onitsuka T, Ohi K, Hashimoto N, Nagasawa T, Takaesu Y, Inagaki T, Tagata H, Tsuboi T, Kubota C, Furihata R, Iga JI, Iida H, Miura K, Matsumoto J, Yamada H, Watanabe K, Inada K, Shimoda K, Hashimoto R.	4. 巻 42(1)
2. 論文標題 Association between the examination rate of treatment-resistant schizophrenia and the clozapine prescription rate in a nationwide dissemination and implementation study.	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Neuropsychopharmacol Rep	6. 最初と最後の頁 3-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/npr2.12218	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ichihashi K, (36名中略) Hashimoto R.	4. 巻 69
2. 論文標題 The characteristics of patients receiving psychotropic pro re nata medication at discharge for the treatment of schizophrenia and major depressive disorder: A nationwide survey from the EGUIDE project.	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Asian J Psychiatr	6. 最初と最後の頁 103007
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.ajp.2022.103007	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kashiwagi H, Matsumoto J, Miura K, Takeda K, Yamada Y, Fujimoto M, Yasuda Y, Yamamori H, Ikeda M, Hirabayashi N, Hashimoto R.	4. 巻 147
2. 論文標題 Neurocognitive features, personality traits, and social function in patients with schizophrenia with a history of violence.	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 J Psychiatr Res	6. 最初と最後の頁 50-58
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jpsychires.2022.01.012	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Tanaka M, Yanagisawa T, Fukuma R, Tani N, Oshino S, Mihara M, Hattori N, Kajiyama Y, Hashimoto R, Ikeda M, Mochizuki H, Kishima H.	4. 巻 12(1)
2. 論文標題 Magnetoencephalography detects phase-amplitude coupling in Parkinson's disease.	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Sci Rep	6. 最初と最後の頁 1835
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-022-05901-9	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yoshikawa H, Kitamura S, Matsuoka K, Takahashi M, Ishida R, Kishimoto N, Yasuno F, Yasuda Y, Hashimoto R, Miyasaka T, Kichikawa K, Kishimoto T, Makinodan M.	4. 巻 12
2. 論文標題 Adverse Childhood Experience Is Associated With Disrupted White Matter Integrity in Autism Spectrum Disorder: A Diffusion Tensor Imaging Study.	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Front Psychiatry	6. 最初と最後の頁 823260
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fpsyt.2021.823260	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Furihata R, (28名中略) Hashimoto R.	4. 巻 89
2. 論文標題 Hypnotic medication use among inpatients with schizophrenia and major depressive disorder: results of a nationwide study.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Sleep Med	6. 最初と最後の頁 23-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.sleep.2021.11.005	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Iino K, Toriumi K, Agarie R, Miyashita M, Suzuki K, Horiuchi Y, Niizato K, Oshima K, Imai A, Nagase Y, Kushima I, Koike S, Ikegame T, Jinde S, Nagata E, Washizuka S, Miyata T, Takizawa S, Hashimoto R, Kasai K, Ozaki N, Itokawa M, Arai M,	4. 巻 12
2. 論文標題 AKR1A1 variant associated with schizophrenia causes exon skipping, leading to loss of enzymatic activity,	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Front Genetics	6. 最初と最後の頁 762999
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fgene.2021.762999	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Schubert KO, (42名中略) Hashimoto R (117名中44番目), (72名中略) Baune BT.	4. 巻 11(1)
2. 論文標題 Combining schizophrenia and depression polygenic risk scores improves the genetic prediction of lithium response in bipolar disorder patients.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Transl Psychiatry	6. 最初と最後の頁 606
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41398-021-01702-2	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Yamauchi T, Makinodan M, Toritsuka M, Okumura K, Kayashima Y, Ishida R, Kishimoto N, Takahashi M, Komori T, Yamaguchi Y, Takada R, Yamamuro K, Kimoto S, Yasuda Y, Hashimoto R, Kishimoto T.	4. 巻 14(11)
2. 論文標題 Tumor necrosis factor- expression aberration of M1/M2 macrophages in adult high-functioning autism spectrum disorder.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Autism Res	6. 最初と最後の頁 2330-2341
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/aur.2585	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yamamoto K, Kuriu T, Matsumura K, Nagayasu K, Tsurusaki Y, Miyake N, Yamamori H, Yasuda Y, Fujimoto M, Fujiwara M, Baba M, Kitagawa K, Takemoto T, Gotoda-Nishimura N, Takada T, Seiriki K, Hayata-Takano A, Kasai A, Ago Y, Kida S, Takuma K, Ono F, Matsumoto N, Hashimoto R, Hashimoto H, Nakazawa T.	4. 巻 11(1)
2. 論文標題 Multiple alterations in glutamatergic transmission and dopamine D2 receptor splicing in induced pluripotent stem cell-derived neurons from patients with familial schizophrenia.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Transl Psychiatry	6. 最初と最後の頁 548
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41398-021-01676-1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kajiyama Y, Hattori N, Nakano T, Revankar G.S., Otomune H, Hashimoto R, Mori E, Ikeda M, Mihara M, Mochizuki H.	4. 巻 7
2. 論文標題 Decreased frontotemporal connectivity in patients with parkinson's disease experiencing face pareidolia.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 npj Parkinsons Dis	6. 最初と最後の頁 90
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41531-021-00237-z	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kikuchi M, Nakazawa T, Kinoshita M, Yamamori H, Yasuda Y, Fujimoto M, Hashimoto R, Numata S.	4. 巻 12
2. 論文標題 Methylation Analysis in Monozygotic Twins With Treatment-Resistant Schizophrenia and Discordant Responses to Clozapine.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Front Psychiatry	6. 最初と最後の頁 734606
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fpsyt.2021.734606	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Japanese Society of Neuropsychopharmacology.	4. 巻 41(3)
2. 論文標題 Japanese Society of Neuropsychopharmacology: "Guideline for Pharmacological Therapy of Schizophrenia".	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Neuropsychopharmacol Rep	6. 最初と最後の頁 266-324
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/npr2.12193	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Le Clerc S, (49名中略) Hashimoto R (122名中51番目), (70名中略) Tamouza R.	4. 巻 11(1)
2. 論文標題 HLA-DRB1 and HLA-DQB1 genetic diversity modulates response to lithium in bipolar affective disorders.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Sci Rep	6. 最初と最後の頁 17823
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-021-97140-7	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Yamagata H, Kobayashi A, Tsunedomi R, Seki T, Kobayashi M, Hagiwara K, Che C, Uchida S, Okada G, Fuchikami M, Kamishikiryo T, Iga J, Numata S, Kinoshita M, Kato TA, Hashimoto R, Nagano H, Okamoto Y, Ueno S, Ohmori T, Nakagawa S.	4. 巻 11(1)
2. 論文標題 Optimized protocol for the extraction of RNA and DNA from frozen whole blood sample stored in a single EDTA tube.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Sci Rep	6. 最初と最後の頁 17075
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-021-96567-2	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kitamura S, Makinodan M, Matsuoka K, Takahashi M, Yoshikawa H, Ishida R, Kishimoto N, Yasuno F, Yasuda Y, Hashimoto R, Miyasaka T, Kichikawa K, Kishimoto T.	4. 巻 14(9)
2. 論文標題 Association of adverse childhood experiences and precuneus volume with intrusive reexperiencing in autism spectrum disorder.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Autism Res	6. 最初と最後の頁 1886-1895
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/aur.2558	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hashimoto N, Yasui-Furukori N, Hasegawa N, Ishikawa S, Numata S, Hori H, Iida H, Ichihashi K, Furihata R, Murata A, Tsuboi T, Takeshima M, Kyou Y, Komatsu H, Kubota C, Ochi S, Takaesu Y, Usami M, Nagasawa T, Hishimoto A, Miura K, Matsumoto J, Ohi K, Yamada H, Inada K, Watanabe K, Shimoda K, Hashimoto R.	4. 巻 63
2. 論文標題 Characteristics of discharge prescriptions for patients with schizophrenia or major depressive disorder: Real-world evidence from the Effectiveness of Guidelines for Dissemination and Education (EGUIDE) psychiatric treatment project.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Asian J Psychiatr	6. 最初と最後の頁 102744
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.ajp.2021.102744	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Takahashi J, Hirano Y, Miura K, Morita K, Fujimoto M, Yamamori H, Yasuda Y, Kudo N, Shishido E, Okazaki K, Shiino T, Nakao T, Kasai K, Hashimoto R, Onitsuka T.	4. 巻 12
2. 論文標題 Eye Movement Abnormalities in Major Depressive Disorder.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Front Psychiatry	6. 最初と最後の頁 673443
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fpsy.2021.673443	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Takemura A, Matsumoto J, Hashimoto R, Kawano K, Miura K.	4. 巻 49(3)
2. 論文標題 Macaque monkeys show reversed ocular following responses to two-frame-motion stimulus presented with inter-stimulus intervals.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 J Comput Neurosci	6. 最初と最後の頁 273-282
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10827-020-00756-3	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nakano T, Kajiyama Y, Revankar G, Hashimoto R, Watanabe Y, Kishima H, Ikeda M, Mihara M, Mochizuki H, Hattori N.	4. 巻 89
2. 論文標題 Neural networks associated with quality of life in patients with Parkinson 's disease.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Parkinsonism and Related Disorders	6. 最初と最後の頁 6-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.parkreldis.2021.06.007	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ohi K, Nishizawa D, Sugiyama S, Takai K, Kuramitsu A, Hasegawa J, Soda M, Kitaichi K, Hashimoto R, Ikeda K, Shioiri T.	4. 巻 24(7)
2. 論文標題 Polygenic Risk Scores Differentiating Schizophrenia From Bipolar Disorder Are Associated With Premorbid Intelligence in Schizophrenia Patients and Healthy Subjects.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Int J Neuropsychopharmacol	6. 最初と最後の頁 562-569
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/ijnp/pyab014	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Amare AT, (46名中略) Hashimoto R, (113名中48番目), (64名中略) Baune BT.	4. 巻 26(6)
2. 論文標題 Association of polygenic score for major depression with response to lithium in patients with bipolar disorder.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Mol Psychiatry	6. 最初と最後の頁 2457-2470
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41380-020-0689-5	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Numata S, Nakataki M, Hasegawa N, Takaesu Y, Takeshima M, Onitsuka T, Nakamura T, Edagawa R, Edo H, Miura K, Matsumoto J, Yasui-Furukori N, Kishimoto T, Hori H, Tsuboi T, Yasuda Y, Furihata R, Muraoka H, Ochi S, Nagasawa T, Kyou Y, Murata A, Katsumoto E, Ohi K, Hishimoto A, Inada K, Watanabe K, Hashimoto R.	4. 巻 41(2)
2. 論文標題 Improvements in the degree of understanding the treatment guidelines for schizophrenia and major depressive disorder in a nationwide dissemination and implementation study.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Neuropsychopharmacol Rep	6. 最初と最後の頁 199-206
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/npr2.12173	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Takahashi J, Miura K, Morita K, Fujimoto M, Miyata S, Okazaki K, Matsumoto J, Hasegawa N, Hirano Y, Yamamori H, Yasuda Y, Makinodan M, Kasai K, Ozaki N, Onitsuka T, Hashimoto R.	4. 巻 41(2)
2. 論文標題 Effects of age and sex on eye movement characteristics.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Neuropsychopharmacol Rep	6. 最初と最後の頁 152-158
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/npr2.12163	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ito S, Matsumoto J, Sakai Y, Miura K, Hasegawa N, Yamamori H, Ishimaru K, Kim Y, Hashimoto R.	4. 巻 75(5)
2. 論文標題 Positive association between insight and attitudes toward medication in Japanese patients with schizophrenia: Evaluation with the Schedule for Assessment of Insight (SAI) and the Drug Attitude Inventory - 10 Questionnaire (DAI-10).	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Psychiatry Clin Neurosci,	6. 最初と最後の頁 187-188
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/pcn.13215	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Takeda K, Yamashita S, Taniguchi G, Kuramochi I, Murakami M, Kashiwagi H, Hashimoto R, Hirabayashi N, Okada T.	4. 巻 118
2. 論文標題 Criminal victimization of people with epilepsy: Sixteen criminal judgments in Japan between 1990 and 2019.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Epilepsy Behav	6. 最初と最後の頁 107912
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.yebeh.2021.107912	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hayashi K, Miki K, Hayashi N, Hashimoto R, Yukioka M.	4. 巻 5(1)
2. 論文標題 Weather sensitivity associated with quality of life in patients with fibromyalgia.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 BMC Rheumatol	6. 最初と最後の頁 14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s41927-021-00185-4	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Idemoto K, Niitsu T, Hata T, Ishima T, Yoshida S, Hattori K, Horai T, Otsuka I, Yamamori H, Toda S, Kamenoy Y, Ota K, Oda Y, Kimura A, Hashimoto T, Mori N, Kikuchi M, Minabe Y, Hashimoto R, Hishimoto A, Nakagome K, Hashimoto K, Iyo M.	4. 巻 301
2. 論文標題 Serum levels of glial cell line-derived neurotrophic factor as a biomarker for mood disorders and lithium response.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Psychiatry Res	6. 最初と最後の頁 113967
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.psychres.2021.113967	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Sonderby IE, (55名中略), Hashimoto R (145 名中56番目), (88名中略), Andreassen OA; ENIGMA-CNV working group.	4. 巻 11(1)
2. 論文標題 1q21.1 distal copy number variants are associated with cerebral and cognitive alterations in humans.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Transl Psychiatry	6. 最初と最後の頁 182
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41398-021-01213-0	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Kitagawa K, Matsumura K, Baba M, Kondo M, Takemoto T, Nagayasu K, Ago Y, Seiriki K, Hayata-Takano A, Kasai A, Takuma K, Hashimoto R, Hashimoto H, Nakazawa T.	4. 巻 14
2. 論文標題 Intranasal oxytocin administration ameliorates social behavioral deficits in POGZWT/Q1038R mouse model of autism spectrum disorder.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Mol Brain	6. 最初と最後の頁 56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s13041-021-00769-8	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Sumiyoshi C, Narita Z, Inagawa T, Yamada Y, Sueyoshi K, Hasegawa Y, Shirama A, Hashimoto R, Sumiyoshi T.	4. 巻 12
2. 論文標題 Facilitative effects of transcranial direct current stimulation on semantic memory examined by text-mining analysis in patients with Schizophrenia.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Front Neurol, section Neurorehabilitation	6. 最初と最後の頁 583027
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fneur.2021.583027	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Okada K, Miura K, Fujimoto M, Morita K, Yoshida M, Yamamori H, Yasuda Y, Iwase M, Shinozaki T, Fujita I, Hashimoto R.	4. 巻 11
2. 論文標題 Impaired inhibition of return during free-viewing behaviour in patients with schizophrenia.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Sci Rep	6. 最初と最後の頁 3237
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-021-82253-w	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Idemoto K, Ishima T, Niitsu T, Hata T, Yoshida S, Hattori K, Horai T, Otsuka I, Yamamori H, Toda S, Kamenno Y, Ota K, Oda Y, Kimura A, Hashimoto T, Mori N, Kikuchi M, Minabe Y, Hashimoto R, Hishimoto A, Nakagome K, Iyo M, Hashimoto K.	4. 巻 134
2. 論文標題 Platelet-Derived Growth Factor BB: A Potential Diagnostic Blood Biomarker for Differentiating Bipolar Disorder from Major Depressive Disorder.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Psychiatr Res	6. 最初と最後の頁 48-56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jpsychires.2020.12.051	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Writing Committee for the Attention-Deficit/Hyperactivity Disorder; Autism Spectrum Disorder; Bipolar Disorder; Major Depressive Disorder; Obsessive-Compulsive Disorder; and Schizophrenia ENIGMA Working Groups, Patel Y, (208名中略), Hashimoto R, (288名中210番目), (78名中略), Paus T.	4. 巻 78(1)
2. 論文標題 Virtual Histology of Cortical Thickness and Shared Neurobiology in 6 Psychiatric Disorders.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 JAMA Psychiatry	6. 最初と最後の頁 47-63
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1001/jamapsychiatry.2020.2694	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Stone W, (20名中略), Hashimoto R, (52名中22番目) (30名中略) Alda M.	4. 巻 11(1)
2. 論文標題 Prediction of lithium response using genomic data.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Sci Rep	6. 最初と最後の頁 1155
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-020-80814-z	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Matsumoto J, Fukunaga M, Miura K, Nemoto K, Koshiyama D, Okada N, Morita K, Yamamori H, Yasuda Y, Fujimoto M, Hasegawa N, Watanabe Y, Kasai K, Hashimoto R.	4. 巻 740
2. 論文標題 Relationship between white matter microstructure and work hours.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Neurosci Lett	6. 最初と最後の頁 135428
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.neulet.2020.135428	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ota T, Iida J, Okazaki K, Ishida R, Takahashi M, Okamura K, Yamamuro K, Kishimoto N, Kimoto S, Yasuda Y, Hashimoto R, Makinodan M, Kishimoto T.	4. 巻 289
2. 論文標題 Delayed prefrontal hemodynamic response associated with suicide risk in autism spectrum disorder.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Psychiatry Res	6. 最初と最後の頁 112971
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.psychres.2020.112971	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Iida H, (55名中略), Hashimoto R.	4. 巻 74(12)
2. 論文標題 Unmet needs of patients with major depressive disorder - Findings from the 'Effectiveness of Guidelines for Dissemination and Education in Psychiatric Treatment (EGUIDE)' project: A nationwide dissemination, education, and evaluation study.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Psychiatry Clin Neurosci	6. 最初と最後の頁 667-669
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/pcn.13143	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Komatsu H, Takeuchi H, Kikuchi Y, Ono C, Yu Z, Iizuka K, Takano Y, Kakuto Y, Funakoshi S, Ono T, Ito J, Kunii Y, Hino M, Nagaoka A, Iwasaki Y, Yamamori H, Yasuda Y, Fujimoto M, Azechi H, Kudo N, Hashimoto R, Yabe H, Yoshida M, Saito Y, Kakita A, Fuse N, Kawashima R, Taki Y, Tomita H.	4. 巻 46(6)
2. 論文標題 Ethnicity-Dependent Effects of Schizophrenia Risk Variants of the OLIG2 Gene on OLIG2 Transcription and White Matter Integrity.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Schizophr Bull	6. 最初と最後の頁 1619-1628
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/schbul/sbaa049	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ikegame T, Bundo M, Okada N, Murata Y, Koike S, Sugawara H, Saito T, Ikeda M, Owada K, Fukunaga M, Yamashita F, Koshiyama D, Natsubori T, Iwashiro N, Asai T, Yoshikawa A, Nishimura F, Kawamura Y, Ishigooka J, Kakiuchi C, Sasaki T, Abe O, Hashimoto R, Iwata N, Yamasue H, Kato T, Kasai K, Iwamoto K.	4. 巻 46(6)
2. 論文標題 Promoter Activity-Based Case-Control Association Study on SLC6A4 Highlighting Hypermethylation and Altered Amygdala Volume in Male Patients With Schizophrenia.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Schizophr Bull	6. 最初と最後の頁 1577-1586
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/schbul/sbaa075	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ohi K, Nishizawa D, Muto Y, Sugiyama S, Hasegawa J, Soda M, Kitaichi K, Hashimoto R, Shioiri T, Ikeda K.	4. 巻 6(1)
2. 論文標題 Polygenic risk scores for late smoking initiation associated with the risk of schizophrenia.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 NPJ Schizophr	6. 最初と最後の頁 36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41537-020-00126-z	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Koshiyama D, Fukunaga M, Okada N, Morita K, Nemoto K, Yamashita F, Yamamori H, Yasuda Y, Matsumoto J, Fujimoto M, Kudo N, Azechi H, Watanabe Y, Kasai K, Hashimoto R.	4. 巻 738
2. 論文標題 Association between the superior longitudinal fasciculus and perceptual organization and working memory: A diffusion tensor imaging study.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Neurosci Lett	6. 最初と最後の頁 135349
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.neulet.2020.135349	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Matsuoka K, Makinodan M, Kitamura S, Takahashi M, Yoshikawa H, Yasuno F, Ishida R, Kishimoto N, Yasuda Y, Hashimoto R, Taoka T, Miyasaka T, Kichikawa K, Kishimoto T.	4. 巻 30(11)
2. 論文標題 Increased Dendritic Orientation Dispersion in the Left Occipital Gyrus is Associated with Atypical Visual Processing in Adults with Autism Spectrum Disorder.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Cereb Cortex	6. 最初と最後の頁 5617-5625
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/cercor/bhaa121	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Wong TY, (36名中略), Hashimoto R, (66名中38番目), (26名中略), Nickl-Jockschat T.	4. 巻 50(12)
2. 論文標題 An overlapping pattern of cerebral cortical thinning is associated with both positive symptoms and aggression in schizophrenia via the ENIGMA consortium.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Psychol Med	6. 最初と最後の頁 2034-2045
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1017/S0033291719002149	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Ichihashi K, (34名中略), Hashimoto R.	4. 巻 40(3)
2. 論文標題 Prescription patterns in patients with schizophrenia in Japan: First-quality indicator data from the survey of "Effectiveness of Guidelines for Dissemination and Education in psychiatric treatment (EGUIDE)" project.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Neuropsychopharmacol Rep	6. 最初と最後の頁 281-286
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/npr2.12122	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Okazaki K, Ota T, Makinodan M, Kishimoto N, Yamamuro, Ishida R, Takahashi M, Yasuda Y, Hashimoto R, Iida J, Kishimoto T.	4. 巻 10(1)
2. 論文標題 Associations of childhood experiences with event-related potentials in adults with autism spectrum disorder.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Sci Rep	6. 最初と最後の頁 13447
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-020-70409-z	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Sekiguchi M, (33名中略), Hashimoto R (45名中35番目), (9名中略), Ozaki N.	4. 巻 10(1)
2. 論文標題 ARHGAP10, which encodes Rho GTPase-activating protein 10, is a novel gene for schizophrenia risk.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Transl Psychiatry	6. 最初と最後の頁 247
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41398-020-00917-z	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Miyanishi H, Uno K, Iwata M, Kikuchi Y, Yamamori H, Yasuda Y, Ohi K, Hashimoto R, Hattori K, Yoshida S, Goto Y, Sumiyoshi T, Nitta A.	4. 巻 43(7)
2. 論文標題 Investigating DNA methylation of SHAT1/NAT8L promoter sites in blood of unmedicated patients with major depressive disorder.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Biol Pharm Bull	6. 最初と最後の頁 1067-1072
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1248/bpb.b19-01099	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kaneko S, Kato T, Makinodan M, Komori T, Ishida R, Kishimoto N, Takahashi M, Yasuda Y, Hashimoto R, Iwasaka H, Tanaka A, Uchida Y, Kanba S, Kishimoto T.	4. 巻 13(6)
2. 論文標題 The Self-Construal Scale: a potential tool for predicting subjective well-being of individuals with autism spectrum disorder.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Autism Res	6. 最初と最後の頁 947-958
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/aur.2242	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kudo N, Yamamori H, Ishima T, Nemoto K, Yasuda Y, Fujimoto M, Azechi H, Niitsu T, Numata S, Ikeda M, Iyo M, Ohmori T, Fukunaga M, Watanabe Y, Hashimoto K, Hashimoto R.	4. 巻 40(2)
2. 論文標題 Plasma levels of matrix metalloproteinase-9 (MMP-9) are associated with cognitive performance in patients with schizophrenia.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Neuropsychopharmacol Rep	6. 最初と最後の頁 150-156
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/npr2.12098	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Saito T, Ikeda M, Mushiroda T, Iwata N, Clozapine Pharmacogenomics Consortium of Japan (CPC-J).	4. 巻 54(5)
2. 論文標題 Human leukocyte antigen DRB1*04:05 and clozapine-induced agranulocytosis/granulocytopenia.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Aust NZJ Psychiatry	6. 最初と最後の頁 545-546
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/0004867419900296	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Writing Committee for the ENIGMA-CNV Working Group, van der Meer D, (51名中略), Hashimoto R, (132名中53番目), (78名中略), Andreassen OA.	4. 巻 77(4)
2. 論文標題 Association of Copy Number Variation of the 15q11.2 BP1-BP2 Region With Cortical and Subcortical Morphology and Cognition.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 JAMA Psychiatry	6. 最初と最後の頁 420-430
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1001/jamapsychiatry.2019.3779	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Ohi K, Nishizawa D, Shimada T, Kataoka Y, Hasegawa J, Shioiri T, Kawasaki Y, Hashimoto R, Ikeda K.	4. 巻 23(3)
2. 論文標題 Polygenetic Risk Scores for Major Psychiatric Disorders Among Schizophrenia Patients, Their First-Degree Relatives, and Healthy Participants.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Int J Neuropsychopharmacol	6. 最初と最後の頁 157-164
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/ijnp/pyz073	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Biton A, Traut N, Poline JB, Aribisala BS, Bastin ME, Bulow R, Cox SR, Deary IJ, Fukunaga M, Grabe HJ, Hagenaars S, Hashimoto R, Kikuchi M, Munoz Maniega S, Nauck M, Royle NA, Teumer A, Valdes Hernandez M, Volker U, Wardlaw JM, Wittfeld K, Yamamori H; Alzheimer 's Disease Neuroimaging Initiative, Bourgeron T, Toro R.	4. 巻 30(4)
2. 論文標題 Polygenic Architecture of Human Neuroanatomical Diversity.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Cereb Cortex	6. 最初と最後の頁 2307-2320
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/cercor/bhz241	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Koshiyama D, (37名中略), Hashimoto R, COCORO.	4. 巻 25(4)
2. 論文標題 White matter microstructural alterations across four major psychiatric disorders: mega-analysis study in 2937 individuals.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Mol Psychiatry	6. 最初と最後の頁 883-895
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41380-019-0553-7	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 埜空大喜、藤本美智子、近江翼、片上茂樹、岩瀬真生、橋本亮太、山森英長、安田由華、阿古目純、中川幸延、池田学、	4. 巻 122(6)
2. 論文標題 Clozapineによる薬疹を疑われ中止した後に再投与した治療抵抗性統合失調症の1例	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 精神医神経学雑誌	6. 最初と最後の頁 424-430
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計66件（うち招待講演 18件 / うち国際学会 8件）

1. 発表者名 Hashimoto R.
2. 発表標題 Treatment resistance schizophrenia.
3. 学会等名 7th Congress of AsCNP 2021 (AsianCollege of Neuropsychopharmacology 2021) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Miura K, Matsumoto J, Hasegawa N, Fujimoto M, Yamamori H, Yasuda Y, Hashimoto R.
2. 発表標題 Combinations of cognitive function and eye movement tests are effective in distinguishing schizophrenia cases from healthy controls.
3. 学会等名 7th Congress of AsCNP 2021 (AsianCollege of Neuropsychopharmacology 2021) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Hasegawa N, Miura K, Matsumoto J, Yasuda Y, Inada K, Watanabe K, Hashimoto R.
2. 発表標題 The effect of EGUIDE project on medication for schizophrenia and major depressive disorder: from the 2016-2019 prescribing survey.
3. 学会等名 7th Congress of AsCNP 2021 (AsianCollege of Neuropsychopharmacology 2021) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Matsumoto J, Fukunaga M, Miura K, (37名中略) Hashimoto R.
2. 発表標題 Cortical structural mega-analysis across four major psychiatric disorders in 5432 individuals.
3. 学会等名 7th Congress of AsCNP 2021 (AsianCollege of Neuropsychopharmacology 2021) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Schijven D, Fisher S.E, Franke B, Glahn D.C, Gur R.C, Hashimoto R, Jahanshad N, Medland S.E, Thompson P.M, van Erp T.G.M, Turner J.A, Francks C, ENIGMA-Schizophrenia working group.
2. 発表標題 A Large-scale Consortium Study of Brain Anatomical Asymmetries in Schizophrenia.
3. 学会等名 2021 Society of Biological Psychiatry(SOPB 2021) Annual Meeting (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Sumiyoshi C, (23名中略) Hashimoto R.
2. 発表標題 Cross-diagnostic Comparisons of Intellectual Ability and Work Outcome in Patients with Mental Disorders: A Multi-center Study.
3. 学会等名 2021 Congress of the Schizophrenia International Research Society(SIRS) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 三浦健一郎、岡崎康輔、松本純弥、長谷川尚美、藤本美智子、山森英長、安田由華、牧之段学、橋本亮太
2. 発表標題 統合失調症の客観的診断マーカーの探索と医療機器プログラムの開発
3. 学会等名 令和3年度精神保健研究所研究報告会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 松本純弥、福永雅喜、三浦健一郎、(37名中略) 橋本亮太
2. 発表標題 多施設共同研究による統合失調症・双極性障害・うつ病・自閉スペクトラム症の疾患横断的大脑皮質構造画像解析
3. 学会等名 令和3年度精神保健研究所研究報告会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 松本純弥、福永雅喜、三浦健一郎、(17名中略) 橋本亮太
2. 発表標題 多施設共同研究による統合失調症と双極性障害の脳皮質構造画像解析
3. 学会等名 第16回日本統合失調症学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 岡崎康輔、三浦健一郎、松本純弥、長谷川尚美、藤本美智子、山森英長、安田由華、牧之段学、橋本亮太
2. 発表標題 眼球運動と認知機能を組み合わせた統合失調症の補助診断法の開発
3. 学会等名 第16回日本統合失調症学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 橋本亮太
2. 発表標題 精神医学研究の最前線：精神疾患の克服とその障害の支援のための研究とは
3. 学会等名 NCNP精神科セミナー（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 橋本亮太
2. 発表標題 標準治療と臨床経験を踏まえた精神科医療とは
3. 学会等名 精神医療フォーラムfrom弘前（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 名和佳弘、久島周、加藤秀一、木村大樹、阪野正大、橋本亮太、菱本明豊、尾崎紀夫
2. 発表標題 欠失を有し統合失調症と診断された4症例の報告
3. 学会等名 第62回日本児童青年精神医学会総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 橋本亮太、市橋香代
2. 発表標題 統合失調症薬物治療ガイドライン改訂 当事者・家族・支援者との共同作成についての報告
3. 学会等名 厚生労働省委託事業 Minds 第23回診療ガイドライン作成に関する意見交換会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 橋本亮太
2. 発表標題 更年期女性のうつ病の診断のポイントと治療のコツ
3. 学会等名 第36回日本女性医学学会学術集会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 橋本亮太
2. 発表標題 学的な根拠に基づく添付文書改訂のための研究とは
3. 学会等名 第117回日本精神神経学会学術総会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 林大祐、南拓人、染谷知恵、春口洸希、稲川拓磨、沖田恭治、佐竹直子、野田隆政、鬼頭伸輔、橋本亮太
2. 発表標題 精神病症状を呈したSilver-Russell症候群の一例
3. 学会等名 第117回日本精神神経学会学術総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 橋本亮太、内田裕之、水野裕也、古郡規雄
2. 発表標題 COVID-19 による緊急事態宣言時におけるクロザピン検査間隔における緊急対応
3. 学会等名 第117回日本精神神経学会学術総会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 橋本亮太、松本純弥、長谷川尚美、三浦健一郎
2. 発表標題 データ駆動型解析による精神疾患のバイオタイプとは？
3. 学会等名 第117回日本精神神経学会学術総会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 橋本亮太
2. 発表標題 統合失調症の薬物療法up to date
3. 学会等名 第117回日本精神神経学会学術総会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 橋本亮太
2. 発表標題 精神科領域における多施設共同研究の実際と研究倫理
3. 学会等名 第117回日本精神神経学会学術総会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 橋本亮太
2. 発表標題 治療抵抗性統合失調症へのクロザピン治療とは
3. 学会等名 第10回日本精神科医学会学術大会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 北川航平、馬場優志、竹本智哉、永安一樹、笠井淳司、橋本亮太、橋本均、吾郷由希夫、中澤敬信
2. 発表標題 7q36.3領域微小重複を有する精神疾患患者のiPS細胞由来分化神経幹細胞を用いた分子病態解析
3. 学会等名 (日本薬学会) 生体機能と創薬シンポジウム
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 北川航平、馬場優志、竹本智哉、永安一樹、笠井淳司、橋本亮太、橋本均、吾郷由希夫、中澤敬信
2. 発表標題 7q36.3領域微小重複を有する精神疾患患者のiPS細胞由来分化神経幹細胞を用いた分子病態解析
3. 学会等名 (日本薬学会) 次世代を担う若手のための創薬・医療薬理シンポジウム
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 橋本亮太
2. 発表標題 精神疾患の克服のための病態解明研究とその障害支援のための社会実装研究
3. 学会等名 学術講演会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 三浦健一郎、山本哲也、松田圭司、松本純弥、橋本亮太、小野誠司、定藤規弘、福永雅喜
2. 発表標題 追跡眼球運動中の大脳皮質活動特性：円滑追跡眼球運動と衝動性眼球運動の比較、
3. 学会等名 第44回日本神経科学大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 井手本啓太、(16名中略) 橋本亮太、菱本明豊、中込和幸、伊豫雅臣、橋本謙二
2. 発表標題 気分障害のバイオマーカーとしての血清中血小板由来増殖因子 (PDGF-BB) に関する多施設共同研究
3. 学会等名 日本プロテオーム学会2021年
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 三浦健一郎、松本純弥、長谷川尚美、藤本美智子、山森英長、安田由華、橋本亮太
2. 発表標題 認知機能と眼球運動を用いた統合失調症の診断マーカーに関する検討
3. 学会等名 第43回日本生物学的精神医学会・第51回日本神経精神薬理学会 合同年会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 柏木宏子、松本純弥、三浦健一郎、福永雅喜、根本清貴、岡田直大、竹田康二、長谷川尚美、藤本美智子、安田由華、山森英長、池田学、渡邊嘉之、平林直次、橋本亮太
2. 発表標題 暴力の既往のある統合失調症患者の、脳体積、大脳皮質厚および表面積の特徴
3. 学会等名 第43回日本生物学的精神医学会・第51回日本神経精神薬理学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 藤本美智子、三浦健一郎、森田健太郎、山森英長、安田由華、池田学、橋本亮太
2. 発表標題 統合失調症におけるバイオマーカーとしての眼球運動スコアの臨床的意義
3. 学会等名 第43回日本生物学的精神医学会第51回日本神経精神薬理学会 合同年会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 橋本亮太、松本純弥、長谷川尚美、三浦健一郎
2. 発表標題 統合失調症のバイオタイプ研究
3. 学会等名 第43回日本生物学的精神医学会・第51回日本神経精神薬理学会 合同年会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 松本純弥、三浦健一郎、(17名中略) 橋本亮太
2. 発表標題 COCORO (Cognitive Genetics Collaborative Research Organization: 認知ゲノム共同研究機構) による統合失調症の大脳皮質厚・大脳皮質面積のメガアナリシス
3. 学会等名 第43回日本生物学的精神医学会・第51回日本神経精神薬理学会 合同年会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 松岡究、牧之段学、北村聡一郎、高橋誠人、吉川裕晶、安野史彦、石田理緒、岸本直子、安田由華、橋本亮太、田岡俊昭、宮坂俊輝、吉川公彦、岸本年史
2. 発表標題 自閉スペクトラム症の左側後頭回の樹状突起のばらつき増大と視覚非定型性の関連
3. 学会等名 第43回日本生物学的精神医学会・第51回日本神経精神薬理学会 合同年会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 橋本亮太
2. 発表標題 精神疾患の克服のための病態解明研究とその障害支援のための社会実装研究
3. 学会等名 第40回NCNP精神保健研究所ランチョンセミナー（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 住吉チカ、(23名中略) 橋本亮太
2. 発表標題 疾患の横断的分類：多施設共同研究
3. 学会等名 第6回CEPD研究会・年次大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 橋本亮太
2. 発表標題 統合失調症の認知社会機能障害の簡易な測定法
3. 学会等名 第15回日本統合失調症学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 住吉チカ、成田瑞、稲川拓磨、山田悠至、白間綾、末吉一貴、長谷川由美、和田歩、橋本亮太、住吉太幹
2. 発表標題 統合失調症患者の意味記憶構造に対する経頭蓋直流刺激の改善効果：テキストマイニングによる分析
3. 学会等名 第15回統合失調症学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Hashimoto R, Matsumoto J, Hasegawa N, Miura K.
2. 発表標題 Partnering International Consortium:COCORO
3. 学会等名 The ENIGMA Consortium All-Hands Virtual Meeting 2020 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Sumiyoshi C, Narita Z, Inagawa T, Yamada Y, Sueyoshi K, Hasegawa Y, Shirama A, Hashimoto R, Sumiyoshi T.
2. 発表標題 Facilitative Effects of Transcranial Direct Current Stimulation on Semantic Memory Examined by Text-mining Analysis in Patients with Schizophrenia.
3. 学会等名 SIRS(Schizophrenia International Research Society) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 橋本亮太
2. 発表標題 統合失調症薬物治療ガイドラインを精神科臨床で生かすために
3. 学会等名 2020年度第5回日本精神薬学会Web講演会 (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 三浦健一郎、松本純弥、長谷川尚美、藤本美智子、山森英長、安田由華、橋本亮太、
2. 発表標題 人工知能技術を活用した精神疾患の層別化 病態の理解と新たな診断体系の構築に向けて
3. 学会等名 NCNP令和2年度精神保健研究所研究報告会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 長谷川 尚美、松本 純弥、三浦 健一郎、橋本 亮太
2. 発表標題 EGUIDEプロジェクトメンバーズ、統合失調症とうつ病の治療に対するEGUIDEプロジェクトの効果
3. 学会等名 NCNP令和2年度精神保健研究所研究報告会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 橋本亮太、青木吉嗣
2. 発表標題 精神・神経・筋難病の克服を目指した研究開発
3. 学会等名 第5回国立研究開発法人イノベーション戦略会議
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 井手本啓太、石間環、新津富央、畑達記、小田靖典、木村敦史、亀野陽亮、蓬莱政、山森英長、戸田重誠、菱本明豊、橋本亮太、中込和幸、伊豫雅臣、橋本謙二
2. 発表標題 気分障害のバイオマーカーとしての血清中血小板由来増殖因子（PDGF-BB）に関する多施設共同研究
3. 学会等名 第17回日本うつ病学会総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 橋本亮太、長谷川尚美、松本純弥、三浦健一郎
2. 発表標題 脳神経画像のメガアナリシスによる病態解明研究とEGUIDEプロジェクトによるガイドラインの普及教育効果の検証
3. 学会等名 NCNP令和元年度精神保健研究所研究報告会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 長谷川尚美、松本純弥、三浦健一郎、橋本亮太、EGUIDEプロジェクトメンバーズ
2. 発表標題 EGUIDEプロジェクトによる退院時処方への効果～クロザピンと医療の質(Quality Indicator)の関係に着目して～
3. 学会等名 NCNP令和元年度精神保健研究所研究報告会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 橋本亮太
2. 発表標題 多施設共同研究体制の構築
3. 学会等名 第15回COCORO会議
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 橋本亮太、EGUIDEプロジェクトメンバーズ
2. 発表標題 EGUIDEプロジェクトの概要
3. 学会等名 第30回臨床精神神経薬理学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 橋本亮太
2. 発表標題 精神疾患の多施設共同研究～病態解明から治療法の社会実装まで～
3. 学会等名 Mist seminar in GIFU (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 近藤百香、栗生俊彦、馬場優志、北川航平、竹本智哉、永安一樹、山森英長、安田由華、藤本美智子、田熊一敞、小野富三人、橋本亮太、橋本均、中澤敬信
2. 発表標題 3q29領域欠失変異を有する精神疾患患者のiPS神経細胞の機能解析
3. 学会等名 第138回日本薬理学会近畿部会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 馬場優志、勢力薫、近藤百香、北川航平、竹本智哉、笠井淳司、吾郷由希夫、永安一樹、森大輔、尾崎紀夫、山本雅、田熊一敞、橋本亮太、橋本均、中澤敬信
2. 発表標題 ヒト染色体3q29欠失モデルマウスを用いた精神疾患の分子病態研究
3. 学会等名 第138回日本薬理学会近畿部会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 橋本亮太
2. 発表標題 臨床研究者の立場から
3. 学会等名 第116回日本精神神経学会学術総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 大井一高、西澤大輔、嶋田貴充、片岡謙、長谷川準子、塩入俊樹、川崎康弘、橋本亮太、池田和隆、
2. 発表標題 統合失調症患者、非罹患近親者、健常者間における各精神疾患のポリジェニックリスクスコア
3. 学会等名 第116回日本精神神経学会学術総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 橋本亮太
2. 発表標題 統合失調症薬物治療ガイドライン改訂版の概要
3. 学会等名 第116回日本精神神経学会学術総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 松本純弥、福永雅喜、根本清貴、越山大輔、三浦健一郎、岡田直大、森田健太郎、山森英長、安田由華、藤本美智子、工藤紀子、笠井清登、渡邊嘉之、橋本亮太
2. 発表標題 大脳白質の軸索の髄鞘化、大脳白質の成熟と、認知機能・社会機能の指標である労働時間との関連
3. 学会等名 第116回日本精神神経学会学術総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 藤本美智子、三浦健一郎、森田健太郎、工藤紀子、畦地裕統、山森英長、安田由華、池田学、橋本亮太
2. 発表標題 統合失調症におけるバイオマーカーとしての眼球運動スコアの臨床的意義
3. 学会等名 第50回日本神経精神薬理学会年会・第42回日本生物学的精神医学会年会・第4回日本精神薬学会総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 橋本亮太、松本純弥、長谷川尚美、三浦健一郎
2. 発表標題 治療の指針となる診断法の開発研究の真のゴールとその道のり
3. 学会等名 第50回日本神経精神薬理学会年会・第42回日本生物学的精神医学会年会・第4回日本精神薬学会総会・学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 橋本亮太
2. 発表標題 統合失調症薬物治療ガイドラインの作成・普及・教育・検証活動：日本神経精神薬理学会から世界を変える！
3. 学会等名 第50回日本神経精神薬理学会年会・第42回日本生物学的精神医学会年会・第4回日本精神薬学会総会・学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 三浦健一郎、松本純弥、長谷川尚美、藤本美智子、山森英長、安田由華、橋本亮太
2. 発表標題 眼球運動特徴による自己組織化マップを用いた統合失調症の層別化
3. 学会等名 第50回日本神経精神薬理学会年会・第42回日本生物学的精神医学会年会・第4回日本精神薬学会総会・学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 松本純弥、三浦健一郎、坂元竜馬、福永雅喜、越山太輔、根本清貴、岡田直大、森田健太郎、大井一高、長谷川尚美、藤本美智子、山森英長、安田由華、笠井清登、渡邊嘉之、橋本亮太
2. 発表標題 統合失調症のbiotypeである認知機能障害と大脳白質統合性の関連
3. 学会等名 第50回日本神経精神薬理学会年会・第42回日本生物学的精神医学会年会・第4回日本精神薬学会総会・学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 松本純弥、三浦健一郎、福永雅喜、越山太輔、根本清貴、大井一高、岡田直大、長谷川尚美、山森英長、安田由華、藤本美智子、鬼塚俊明、高橋努、尾崎紀夫、渡邊嘉之、橋本亮太
2. 発表標題 統合失調症患者と健常被験者における拡散テンソル画像を用いた大脳白質微細構造と認知機能、認知機能障害、労働時間との関連
3. 学会等名 第50回日本神経精神薬理学会年会・第42回日本生物学的精神医学会年会・第4回日本精神薬学会総会・学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 柏木宏子、三浦健一郎、松本純弥、坂元竜馬、竹田康二、山田悠至、藤本美智子、安田由華、山森英長、池田学、平林直次、橋本亮太
2. 発表標題 暴力の既往のある統合失調症罹患者の、認知機能、精神病理、心理社会的背景の特徴
3. 学会等名 第50回日本神経精神薬理学会年会・第42回日本生物学的精神医学会年会・第4回日本精神薬学会総会・学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 井手本啓太、石間環、新津富央、畑達記、小田靖典、木村敦史、亀野陽亮、蓬萊政、山森英長、戸田重誠、菱本明豊、橋本亮太、中込和幸、伊豫雅臣、橋本謙二
2. 発表標題 気分障害のバイオマーカーとしての血清中血小板由来増殖因子 (PDGF-BB) に関する多施設共同研究
3. 学会等名 第50回日本神経精神薬理学会年会・第42回日本生物学的精神医学会年会・第4回日本精神薬学会総会・学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 橋本亮太
2. 発表標題 精神疾患の病態解明研究のトレンドウォッチ：ビッグデータと仮説検証研究
3. 学会等名 第43回日本神経科学大会、(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 三浦健一郎、吉田正俊、藤本美智子、山森英長、安田由華、長谷川尚美、松本純弥、橋本亮太、竹村文
2. 発表標題 フリービューイング時のマカクサルの視覚探索行動：ヒトとの比較
3. 学会等名 第43回日本神経科学大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 橋本亮太
2. 発表標題 精神疾患の克服とその障害の支援
3. 学会等名 NCNP EDICS/精神科共催セミナー
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計19件

1. 著者名 橋本亮太	4. 発行年 2022年
2. 出版社 メディカルレビュー社	5. 総ページ数 4
3. 書名 第IX章 精神疾患「統合失調症」、日常診療に活かす診療ガイドラインUP-TO-DATE 2022-2023	

1. 著者名 木田直也、橋本亮太、	4. 発行年 2021年
2. 出版社 医学書院	5. 総ページ数 1
3. 書名 クロザピン療法、標準的医療説明 - インフォームド・コンセントの最前線 -	

1. 著者名 三浦健一郎, 松本純弥, 長谷川尚美, 橋本亮太	4. 発行年 2022年
2. 出版社 ニューサイエンス社	5. 総ページ数 3
3. 書名 眼球運動の定量的分析とその精神医学への応用、月刊 細胞	

1. 著者名 安田由華、橋本亮太	4. 発行年 2021年
2. 出版社 アークメディア	5. 総ページ数 7
3. 書名 統合失調症における認知機能障害と脳画像、臨床精神医学、	

1. 著者名 稲垣中、佐藤英樹、稲田健、市橋香代、中川敦夫、古郡規雄、橋本亮太	4. 発行年 2021年
2. 出版社 星和書店	5. 総ページ数 16
3. 書名 わが国で実施された臨床試験と使用成績調査の結果から見た抗精神病薬による統合失調症治療の安全性、臨床精神薬理	

1. 著者名 橋本亮太	4. 発行年 2021年
2. 出版社 新学術領域「マルチスケール精神病態の構成的理解」領域事務局	5. 総ページ数 24
3. 書名 「当事者・ご家族からこころの問題を学ぶ」と「基礎神経科学と臨床精神が融合したブレイクスルー研究の育て方」、MULTISCAL BRAIN News letter	

1. 著者名 市橋香代、橋本亮太	4. 発行年 2021年
2. 出版社 星和書店	5. 総ページ数 7
3. 書名 当事者・家族・支援者と作り上げる出口戦略、臨床精神薬理	

1. 著者名 橋本亮太、神庭重信、岩田仲生、尾崎紀夫、加藤忠史	4. 発行年 2021年
2. 出版社 メディカルレビュー社	5. 総ページ数 7
3. 書名 今後の精神医学研究を語る, 精神科臨床Legato	

1. 著者名 越山太輔、福永雅喜、笠井清登、橋本亮太	4. 発行年 2021年
2. 出版社 メディカルレビュー社	5. 総ページ数 3
3. 書名 統合失調症・双極性障害に共通する大脳白質の微細構造変化、精神科臨床Legato	

1. 著者名 EGUIDEプロジェクト	4. 発行年 2020年
2. 出版社 医学書院	5. 総ページ数 138
3. 書名 ケースでわかる！精神科治療ガイドラインのトリセツ、	

1. 著者名 橋本亮太、渡邊衡一郎	4. 発行年 2020年
2. 出版社 中山書店	5. 総ページ数 3
3. 書名 気分症群(講座 精神疾患の臨床), EGUIDEプロジェクト	

1. 著者名 古郡規雄、橋本亮太	4. 発行年 2021年
2. 出版社 星和書店	5. 総ページ数 5
3. 書名 Clozapineのモニタリング制度の現在と未来、臨床精神薬理	

1. 著者名 古郡規雄、西村勝治、久住一郎、新津富央、稲田健、上野雄文、木下利彦、三村將、中込和幸、下田和孝、橋本亮太	4. 発行年 2021年
2. 出版社 星和書店	5. 総ページ数 7
3. 書名 クロザピンモニタリング制度に関する学会での活動、臨床精神薬理	

1. 著者名 長谷川尚美、橋本亮太	4. 発行年 2021年
2. 出版社 じほう	5. 総ページ数 5
3. 書名 疾患別 統合失調症、IIガイドラインに基づく外来での精神科薬物療法、調剤と情報 臨時増刊号	

1. 著者名 古郡規雄、内田裕之、水野裕也、橋本亮太	4. 発行年 2020年
2. 出版社 星和書店	5. 総ページ数 8
3. 書名 クロザピン患者モニタリングサービスの国際比較ーCOVID-19対応を含めてー、臨床精神薬理	

1. 著者名 橋本亮太	4. 発行年 2020年
2. 出版社 日本整形外科学スポーツ医学会	5. 総ページ数 2
3. 書名 スポーツとこころの関係～精神科の立場から体の痛みを考える～、日本整形外科学スポーツ医学会雑誌、	

1. 著者名 橋本亮太	4. 発行年 2020年
2. 出版社 公益財団法人日本精神神経科診療所協会	5. 総ページ数 5
3. 書名 EGUIDEプロジェクトの概要、日本精神神経科診療所協会誌日精診ジャーナル、第24回通算45回学術研究会 2018年淡路大会特集号	

1. 著者名 橋本亮太、松本純弥、長谷川尚美、三浦健一郎	4. 発行年 2020年
2. 出版社 医学書院	5. 総ページ数 7
3. 書名 精神疾患のバイオマーカーを考察する、精神医学	

1. 著者名 稲田健、橋本亮太、中込和幸	4. 発行年 2020年
2. 出版社 医学書院	5. 総ページ数 5
3. 書名 統合失調症薬物治療ガイドライン、精神医学	

〔産業財産権〕

〔その他〕

国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 精神疾患病態研究部 https://byoutai.ncnp.go.jp/
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	三浦 健一郎 (Miura Kenichiro) (20362535)	国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター・精神保健研究所 精神疾患病態研究部・室長 (82611)	
研究分担者	松本 純弥 (Matsumoto Jyunya) (10635535)	国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター・精神保健研究所 精神疾患病態研究部・室長 (82611)	
研究分担者	長谷川 尚美 (Hasegawa Naomi) (70865906)	国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター・精神保健研究所 精神疾患病態研究部・リサーチフェロー (82611)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
米国	National Institute of Mental Health	Liber Institute for Brain Development	UCLA School of Medicine	他102機関
米国	University of Southern California,	University of California, Irvine	Georgia State University,	他102機関